

プロジェクトリーダー:愛知工業大学 基礎教育センター 長谷川省一教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	瀬戸市の教育への支援に繋げる協働実践
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>本プロジェクトの目標にした、</p> <p>① これまでの実践を通して中学校と本学との間で築いてきたwin-winの関係を、今後も確実に定着させ、持続させていく。</p> <p>② 夏休み勉強会の期間中だけでなく、普段の勉強に於いても、中学生からの質問に対応できる環境を模索する。</p> <p>の2つの課題解消についてであるが、</p> <p>①については、今年度も従来同様に、瀬戸市立光陵中学校からは、年度当初に「今年も、夏休み学習会に学生さん方が来ていただけますか。是非とも、お願いします」との熱い期待を寄せていただき、8月20日(月)～23日(木)の4日間(光陵中学校の夏休み学習会の後半に該当)に延べ25名の学習支援員を派遣し、1年生から3年生の各学年の勉強会での学習支援を展開した。学習支援活動の終了後、光陵中学校の管理職の先生方及び各学年団の先生方からは、「中学校としては、より多くの生徒に個別指導が展開でき、大いに助かっております。生徒たちも、学生さんに教えてい頂けるのを楽しみにしておりました。今後とも、宜しくお願いします」との感謝の言葉をかけていただいた。</p> <p>一方、学習支援員として参加した学生も、大学での教職課程の授業として行ってきた模擬授業では決して経験できない、リアルな生徒の反応を体験できた。同じ問題に関しても、生徒一人ひとりで躓いているところが違い、生徒一人ひとりに会った説明が必要であること。そのためにも、生徒をよく知ることが大事であることを実感した。この経験が、きっと来年の教育実習に繋がる」との感想を寄せている。</p> <p>。このように、中学校と本学との間で築いてきたwin-winの関係を、確実に定着させ、持続させることが出来たと考えている。更に、今年度は、瀬戸市新郷地区での小中学生の勉強会への学習支援の依頼も新たに受けて、8月21日、22日の両日の午前中、瀬戸市新郷地区<さとの家>での勉強会に、延べ10名の学習支援員を派遣した。来年度の派遣依頼の要請も受けている。このことは、本学の大学としての地域貢献活動の広がりには繋がると考えており、積極的にこの<協働実践>活動を推進していく所存である。</p> <p>。②の普段からの「個別の丁寧な対応」に関しては、今年度も、学習チューターを申し出ている学生が、中学生に向けて啓発のポスターを作成し、中学校の各教室に掲示していただく等、積極的に働きかけはしてきたが、中学生からの夏休み学習会以外での質問は一通も受け取っておらず、夏休みの学習会だけでなく普段から質問に対応することについては、残念ながら、昨年が続いて模索途上にある。</p>	

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)

- 3月16日 瀬戸市立新郷地区<さとの家>での小中学生の勉強会担当者野津様より、夏休み勉強会への学習支援員派遣の依頼を受ける
- 20日 プロジェクトの採択通知を受け取る
- 26日 光陵中学校へ、平成30年度も引き続き「夏休み勉強会への学習支援活動」の継続を依頼し、確認する
- 6月15日 光陵中学校より、「平成30年度夏休み学習会日程表」がメールで届く
- 下旬 「瀬戸市立光陵中学校及び瀬戸市新郷地区への学習支援員の派遣 説明会」の書類を作成すると共に、「夏休み勉強会への学習支援員申込書」を作成し、本学教職課程の講座で配布し、広く希望者を募った
- また、昨年度から始めた「日頃からの学習支援について広報活動」の一環として、夏休み学習会への参加と日頃からの質問を積極的に促すポスターの作成を学生に呼びかけた
- 7月 4日 光陵中学校とさとの家へ、学習支援員として応募してきた学生の一覧表を届ける
- 光陵中学校には、学生の作成した日頃からの質問を積極的に促すポスターを届けて、教室への掲示を依頼する
- 光陵中学校より、夏休み学習会で使用する教材を受け取り、学習支援に参加する学生へ配布する準備に取りかかる
- 12日 学習支援員派遣に関する説明会の資料作成
- 23日 「瀬戸市立光陵中学校、及び、瀬戸市新郷地区<さとの家>への学習支援員の派遣」についての説明会を実施
- 8月20日 光陵中学校の学習会に出向き、学生（1名）の学習支援活動をサポート
- 21日 さとの家及び光陵中学校の学習会に出向き、学生（11名）の学習支援活動をサポート
- 22日 さとの家及び光陵中学校の学習会に出向き、学生（9名）の学習支援活動をサポート
- 23日 光陵中学校の学習会に出向き、学生（4名）の学習支援活動をサポート

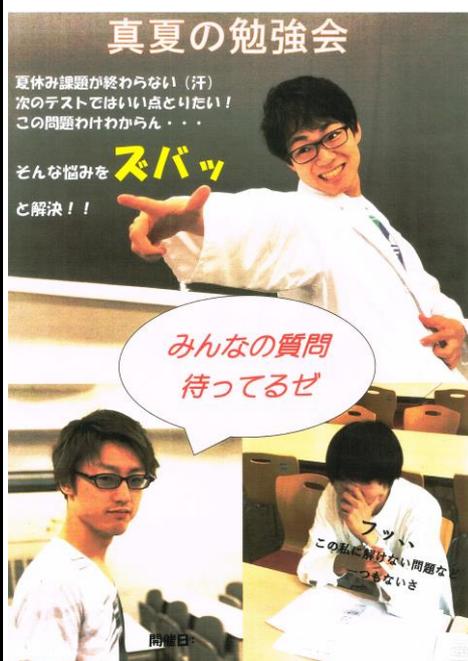
(4) プロジェクトの今後の課題と展望

中学校と本学との間で築こうとしてきたwin-winの関係は、確実に定着し継続させることが出来ており、加えて、今年度は、地元地域に対する本学の地域貢献活動にも発展する筋道が開けてきたと考えている。

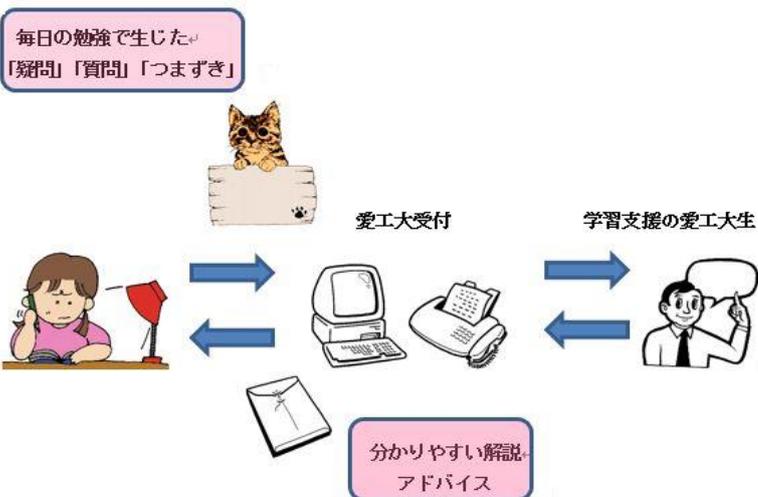
今後とも、積極的にこの<協働実践>活動を推進していくことの意義と必要性を強く感じている。

その一方で、昨年度から「日頃からの支援」について模索すべく、広報パンフレット<愛工大生による「学習支援」について>と<質問票>を作成して、光陵中学校と協議しながら進めてきたが、上記(2)②にも記載したように、中学生からの質問は一通も届いてはいない。教職課程の学生からは、光陵中学生の日頃の勉強を支援する「学生チューター」として4名が登録して常に待機してくれている状態であるにも関わらずである。

「日頃からの学習支援」について、中学生からの質問票が来ないことから学生チューターと相談した結果、気軽に質問できるよう啓発ポスターを教室に掲示して頂こうということになり、今年度も、新たに次のようなポスターを作成して上記(2)②に記したように中学校の各教室に掲示して頂いた。



【送信先：愛工大受付】 e-mail : s-hasegawa@aitech.ac.jp
FAX : 0565-48-6267



質問する中学生が、直接、回答する学生チューターに連絡を取るシステムには取ってしていない。何故なら、中学生からの勉強面での質問に対する回答以外に、個人的な関係に発展していくことのないよう、中学校とも十分に協議の上、上図に示すように愛工大受付窓口を一本化し、返信についてもこの窓口を必ず通すようにしているからである。

しかしながら、このことがハードルの一つになって、日頃の勉強で生じた質問に関して、質問票を利用しようとする意識が薄れていることが十分想像できるが、これはやむを得ないと考えている。この学習支援活動を継続していく中で、中学校の先生方や中学生の、学習支援員である本学学生への信頼感が熟成されていくのを待つべきなのかも知れない。